第１０回　川越市総合計画審議会

１　開催日時　　平成 27 年 10 月 7 日（水）午後 4 時 00 分～午後 6 時 13 分

２　開催場所　　川越市保健所　大会議室

３　出 席 者

溝尾良隆、河野哲夫、江田肇、大泉一夫、川口知子、小野澤康弘、川口啓介、髙橋剛、伊藤匡美、関口一郎、真下英二、山崎明美、岩堀和久、岡田弘、小倉元司、柿沼昭弘、櫻井晶夫、重成大毅、関口俊一、長坂江、原伸次、山岡俊彦、平嶋こずえ、町田一枝の各委員

４　会議の概要

１　開会

２　会長挨拶

東松山市出身で川越高校を卒業された梶田さんがノーベル物理学賞を受賞され、大変おめでたいことだと思っている。総合計画審議会も、前回は第4コーナーを回ったところだったが、そろそろテープを切る頃なので、総合計画全体について意見を言える最後の機会となるので皆さんの活発な御審議をお願いしたい。

３　報告

事務局から、第9回審議会等において、未回答となっている事項について、資料9-1、資料10-1-②、資料10-3-②により説明。

４　議事

（１）審議会意見反映について

事務局から資料 10-1、資料 10-2 に基づき説明。

【意見の概要及び質疑応答】

○資料10-1、10ページ、26番について治水事業の関係で、指標が久保川改修の進捗状況のみということで指摘した。治水全体の指標としては適切でないということで削除されたが、むしろ、他の河川も加えて指標を増やすべきだという趣旨であって、この指標を削除してしまうと、目標値がないということになってしまう。10年間を通しての施策で途中の段階で進捗について評価をすると思うが、数値目標がないと評価をするのも難しくなってしまう。雨水流出抑制施設の設置率や、久保川の改修率などいろいろ考えられると思うので、数多く数値目標を設定する方向で再度検討いただきたい。

・準用河川である久保川の改修については、第一期工事分として、所沢県道を念頭に置いて工事を行っている。数値目標を総合計画に入れることは問題ないと考えている。

・第三次総合計画で雨水流出抑制施設として各戸の浸透ます等に対し、下水事業の中で補

助金の交付をしており、補助金の件数となると、あくまで申請ということになるので、普及の啓発を行っているが、実際にどこまで見ているか分からないということで指標から外したというのが１つはある。また、市内全域の雨水計画の見直しをする予定であるため、雨水関連の指標は外した。

・河川については、国や県など管理が複数にまたがっているが、久保川は市が管理しているということで、指標として設定が可能だと考えている。御指摘いただいたように、雨水関係の指標を調整して検討したい。

○資料10-3の9番の意見で、基本構想に平和という表現を入れていただきたいとお願いしたが、結果としては原案どおりとなっている。理由を見ると、「安全で安心して過ごせる」前提として平和があり意味としては含まれるとあるが、市民憲章や2005年の平和都市宣言といったことを考えると、基本構想の理念の中に平和という表現はぜひとも入れていただきたいと思う。例えば、どうしても安全、安心を入れたいということであれば、「平和で安全な、そして安心して過ごせるまち」とか。川越市の顔というか、理念として、平和というのをこれまでも総合計画の中に入っていた表現でもあるのでぜひ入れていただきたい。平和を入れられない理由が私には分からないので、記載されていること以外の理由があるのであれば、お聞かせいただきたい。これについてはぜひ入れていただきたいと思うがいかがか。

・平和については原案どおりということで、理由については、「安全で安心して過ごせる」前提として平和があるということで、そのような意味合いの中で整理させていただいた。理念とは異なるが、施策40に「平和で思いやりのある社会づくり」があり、計画の中に盛り込まれている。

○平和という言葉は一番分かりやすい。平和な社会があってこその総合計画、施策である。大前提が平和な社会だと思う。川越市が名実ともに理想的な市を目指すのであるならば、平和というものに行政がどう取り組んでいくのかというのは大きな課題だと思う。理念の中で平和ということをうたうのは必要だと思う。

○安全安心の安心を削除し、「未来に引き継ぐ平和で安全なまちをつくります」と考えた。平和はおだやかで和らいでいる状態と辞書には書いてあるが、「和」ということを考えると、安全安心よりも強い意味を持っているので、ぜひ入れていただきたい。

○市民憲章にも入っており、強い言葉ではないので検討して欲しい。

○少子化対策の推進の指標の出生数に関し、ただ単に推計値なのか。川越市は子育て支援の施策に力を入れており、総合計画においても子育て環境を改善しようという取組があるなかで、期待値はこの数値の中に入っていないのか。数が減らないように、踏みとどまるような目標値を設定する考えはないのか。

○他の指標でも、こういう傾向だからこうだというものが多い。こういう傾向になるけれども、川越市はこうして食い止めたいといった姿勢が欲しい。

○空き家率についても、増やさないという努力はみられるが、ただ単に現状維持ではなく、空き家の対策の施策を行うことにより空き家率を減らすという積極的な目標を掲げてはどうか。

○目標値は、このままだと減るけれども努力して食い止めるという数字なのか。

・空き家率については現状値が11％ということで、今後、高齢者の一人世帯等の増加に伴

い、ますます増えていくという前提がある。現状程度に抑えるのが精一杯だという認識のもと設定した指標となっている。空き家に関しては、対策に関する法律が制定されたばかりで、市として実態把握がまだできていない。今は空き家条例の中で、問題のある空き家について市に通報をいただいている。年に100から200件の通報があり、また、表にある17,500軒の空き家がどのような状況にあるかが見えていない中で指標を設定させていただいた。「周辺住民の協力を得ながら」という言葉を追加させていただいたように、地域住民の方の御協力をいただきながら実態把握から始めていきたいということで御理解をいただきたい。

・出生数の根拠としては、基本構想のなかで将来人口としてお示ししている推計値となっており、期待値は入っていない。

○資料10-2、14ページと15ページの数値の違いの理由は何か。

・当初0歳児の1月1日現在の人口ということで数字を出したが、その後、出生数ということで数字を改めさせていただいた。

○地域へ行政から依頼されるものが縦割りでいろいろ下りてくる。関連するものは行政内部で協議して整理してから下して欲しいと何回か意見を述べたが、反映されていない。これから10年間このままいってしまうと大変な問題になってしまうので、一行でいいのでそういった文言を入れていただきたい。防犯、防災、地域福祉関連など色々なものが来るので、行政の方でまとめてくれればもう少しうまくいくのではないかと思う。

・関係課から一つ一つ地域にお願いさせていただいており、特に自治会関係の方からは大変だという声をお聞きしている。地域会議についてもこれ以上会議を増やされてもとてもできないという御意見もいただきながら設置させていただいたもので、今後整理できるものは横の連携を取りながら、地域と市の関係についてスリム化できるところはしていきたいと考えている。どのような形で施策に反映できるかもう一度検討させていただきたい。

○自治会は市の下請け機関的なことをやっていて、みんな嫌になってしまう。そういったものをまとめる意味で地域会議を設立したと理解している。地域会議ができて実は会議が増えてしまったが、これをもう少しうまく機能させれば会議を減らせて、行政と地域の関係ももう少しスムーズに行くのではと考える。地域会議をうまく機能させるためには行政にも努力をしていただきたい。

○自治会はお金集めとビラ配りだけだと話すことがあるが、安全安心なまちをどうつくるか議論をできるような自治会にしたい。

○どこの自治会でもそういう声を聞く。自治会で集金の依頼を断ったことがあった。断った結果、何の影響もなかった。協働という言葉は幅が広く、いい言葉だが、行政の方ももう少し整理して欲しい。回覧という制度は住民に負荷がかかっている。要介護の調査も各自治会長に負荷がかかっている。行政はそれをどれくらい理解しているのか。

・地域会議が先行しているが、地域といい関係を続けるために、地域の負担を減らしていくような見直しをしていく必要があると感じている。

○募金は年に6回ある。活動資金として還元されるという面もあるのでやめられない。回覧も意味のあるものないものまちまちだが、とにかく量が多くてパンク寸前である。行政の方で仕分けをしてほしい。

○総合計画には目標値が多く設定されている。目標値と書かれているが、推計値と書けばよいのではないか。目標値と推計値の整理はできるのか。

○将来人口が計算上347,000人になっているが、川越市はこれからブランド力を発揮していいまちをつくり350,000人だけは維持しようじゃないか、という目標値でよいのではないか。計算上はこうなるけれども、だれもが住み続けたいまちをつくるのだから現状を維持する。347,000人になるという推計値を書いた上で、決意表明をしてもよいのではないか。

○資料10-3、6ページの60番で、少子化の傾向に歯止めをかけるということを明確に表現しているが、具体的にどのようなことを言うのかを聞きたかった。少なくとも減少傾向を横ばいにするとか、V字回復にするとか、そのようなことを言うのか。緩和ではなく、歯止めをかけるということを言っているので子どもの絶対数を減らさないということなのか、あるいは出生率を引き上げるということなのか。

・川越で生まれて、育っていただく、また社会増ということで他市から移動してきていただく、この両輪をもって川越市の少子化対策ということで対応させていただきたい。

○この10年間でこういうことをやりたいということを言っていただいているが、目的で歯止めをかけると言っているので、どういう状態に持っていくのか、何をもって少子化傾向に歯止めがかかったといえるのかということをお聞きしたい。

・出生数は減少するという推計が出ているが、推計値以上の数にしていくことが歯止めをかけるということになると考えている。

○少なくとも横ばい状況か、回復状態に持っていくということを言わなければ歯止めをかけるということにならないと考えるがいかがか。

・具体的にどのような数字をもって歯止めがかかった、といえるようなものは現状ではない。

○少子化傾向を緩和するというくらいに感じるが、ぜひ少子化傾向に歯止めをかけるという目的を維持していただきたい。

○歯止めをかけるというのはいつからか。スタートはいつからか、分かりやすい方がいい。

・出生数については、よりどころは推計値になってしまう。数を増やすという考え方は必要だと認識している。掲げられた施策をいかに充実させていくかということが数値に結びつくか、あるいはそれ以上のものを達成するかということを考えている。地方創生という国の政策のなかで人口推計を行っている。その中でも人口の減少に歯止めをかけるということで議論が進んでいる。その内容の数値と同様の考え方のなかで進めている。時間をいただき再度検討したい。また人口については推計値は347,000人で目標は350,000人だということは表記を変えて対応できると考えるので次回までに検討させていただきたい。

○資料10-2、89ページ、資料10-3-②、4ページ、水辺環境の保全について市の考え方を確認したい。水辺環境の保全について、市が取り組むことは啓発事業と市民参加による保全活動の支援となっているが、市が主体的に水辺環境を保全する具体的な取組がない。市が保全に努めます、保全を図ってまいりますというような表現で記載をしていただきたいと申し上げたが反映されなかった。市が行うのはそれだけでよいのか再度確認したい。

・個別計画と整合性を図りつつ、市の取組を記載するような形で検討させていただきたい。

〇資料10-3、28ページ、282番について、水道事業の民間委託に関し、外部を見張るということが必要だと発言した。市民がワーキングプアになったらそれは市民サービスなのか。発注する側にもそれなりの責任があると思う。コストが削減されても広い意味でそれが市民サービスに繋がっているのか。原案に文言を入れるのは難しいかもしれないが、民間委託にも適正な、適切な委託の仕方があると思う。公共調達審議会で関連することが審議されているが、行政の姿勢として、そういったことを考えていくといった意味の表現を検討されたい。

・外部委託、指定管理等の導入の際には適正な形で市としては発注を行っていると思うが、表記のあり方については再度検討させていただきたい。

〇計画自体は、万遍なくよくできていると思うが、光るものがない。福島県郡山市は音楽都市郡山として、小学生から音楽が盛んである。また山間の村や島でアート的なことをやっている。川越は蔵だけではなく、人間がやれるものをもっとやって、そういったものを売りものにすれば、観光客だけでなくまちも潤うし、まちが潤えば人口も増える。そういった魅力的なものがひとつでもあればいいと思う。なかなか難しいと思うが、何か作れないか。ジャズフェスティバルが今年はウェスタで行われ、例年以上の反響があった。市内に音大もあるし、土日にどこかに行けば音楽をやっている、蔵造りを見た帰りに音楽を聴いて帰るということになれば、今度は音楽を聴きに観光客が来るかもしれない。そういった環境になれば、人が住むようになるかもしれない。それが一つの大きな魅力になっていく。古いものにとらわれず、新しいものを見据えながら、川越が魅力あるまちだということを発信していかないといけない。そういったことも考えてもらいたいし、みんなで考えたい。

（２）その他

・今後の日程

次回：

第11回審議会　10月14日（水）午後2時から　川越市役所7階会議室

・今回の審議で検討を要することになった件に関しての報告の後、計画の全体像をお示しする。

10月28日には意見公募手続の意見内容を御報告する予定。

５　副会長挨拶

河野副会長が、閉会に当たり挨拶を行った。

６　閉会